

# 学生の皆さんへ

学生部長 笹倉 和幸

早稲田大学は、毎年、学生部が中心となり『学生生活調査』を実施しています。このたび、その最新の調査結果が出ましたので、ここにお届け致します。

早稲田大学には現在、約54,000人の日本人や留学生が、学部生・大学院生として、在籍しています。早稲田大学は、全ての早大生の学生生活が充実したものになるように、日々努力を続けていますが、そのためにはまず、多種多様な構成を持つ早大生の全体像を知る必要があります。その基礎資料となるのがこの『学生生活調査』の結果であり、学生部のみならず、皆さんの所属する学部・大学院を含む大学全体で活用されています。

2013年度は1万人の学部学生、2,000人の大学院生、ならびに昨年ご協力いただいた学部学生のうち、現在2～4年に在籍する1,127人、そして全ての専門職大学院生に対して、学生生活に関するアンケートへの回答をお願いしました。ご協力いただいた皆さんには、この場をお借りしてお礼申し上げます。もし皆さんの現在の学生生活が充実しているのであれば、それは皆さんの先輩たちのこの調査への協力の結果でもあるでしょう。そして、今回の皆さんの協力も、皆さんはもちろん皆さんの後輩たちの学生生活を一層充実させることになると考えています。

今回の調査で、学生生活が「充実している」、「やや充実している」と肯定的に答えた学生はおのおの47.9%、43.3%で、全体の91.2%になりました。4年前の2009年

度より、6.2%上昇しています。昨年度に続き、早稲田大学としてはうれしい結果となりました。もちろんこの結果に甘んじることなく、否定的回答であった8.3%の学生にも満足してもらえるように、引き続きさまざまな角度からの改善策を探っていくつもりです。

この調査の実施直前には、就職活動の開始時期の後ろ倒しというニュースが飛び込んできました。そこで、急ぎよそのことに対する学生の気持ちを尋ねてみました。まずそのことを知らない学生は入学したばかりの1年生で多いものの、全体ではわずか8.7%で、関心の高さがうかがえます。そして、「不安に感じている」という学生は全体で50.0%にもなり、学年が上がるとともに増えています。就職活動の環境が変わっても大学での日頃からの努力が大事であることは変わりませんが、もし不安があればキャリアセンターを利用して正確な情報を得ることをお勧めします。

最後になりましたが、6つの章からなるこの報告書の作成に当たっては、第1・2章を岡田純一 スポーツ科学学術院准教授に、第3・6章を仲道祐樹 社会科学総合学術院准教授に、第4・5章を所千晴 理工学術院准教授にご担当いただきました。ご多忙の中、調査結果の分析を快くお引き受けいただきました先生方には心より感謝申し上げます。

2013年10月21日

## 本報告書の構成について

P3では調査の概要を一覧表にまとめています。P4～P13までは約50問にわたる設問を分析した結果を、[1]教員・授業・勉強・研究について、[2]将来設計（キャリアプラン）と準備について、[3]心身の健康について、[4-1]課外活動やボランティア活動、現在関心の高い社会問題について、[4-2]アルバイトについて、[5]大学院生について、[6]早稲田大学について、の7つのカテゴリーに分けて特徴を掲載しています。P14～P16は記述回答を除く各設問の単純集計結果を掲載しています。